

暫間修復 はじめに

12. 暫間修復

はじめに

PEEK製のテンポラリーアバットメントは審美的即時修復のためにデザインされています。また、最長6ヵ月程度の長期の暫間修復にも使用できます。

即時埋入の利点は審美領域の歯周またはインプラント周囲組織が保存されることです。インプラント及びインプラント周囲組織の十分な治癒期間（オッセオインテグレーション）を経た後に最終補綴のための印象採得を行います。



システム構成品

φ 3.8～φ 6.0mmの径にはテンポラリーアバットメント(PEEK製・高さ12.0mm)があります。アバットメントの固定スクリューはヘックススクリウドライバーを使用して必ず手締めします。フィクシングスクリューはアバットメントに付属されています。



テンポラリーアバットメントの形成

アバットメントを回転させカム位置を確認し、カムが溝に完全に収まるまで挿入していきます。フィクシングスクリューを手締めします。歯肉のラインに合わせて、前庭側中心部とマージンラインをアバットメントにマークします。



周囲組織への影響をなくすため、テンポラリーアバットメントの形成は口腔外で行ってください。形成の際にはアバットメント形成用ホルダーまたはインプラントアナログに装着すると操作が容易になります。マークに沿って通常の歯周補綴と同様に形成します。

ダイヤモンドバーを使用して、無注水・低加圧で高回転で形成すると良いでしょう。審美的な修復でシャンファー形態やクラウンマージンは歯肉辺縁部と同位置に、それ以外の修復の場合はインプラント周囲組織の解剖学的立ち上がり形態を獲得するために1～1.5mm歯肉縁下に位置させます。アバットメントの挿入部分がわかりやすいようにアバットメントの唇側面にマークします。



暫間修復

テンポラリーアバットメントの形成

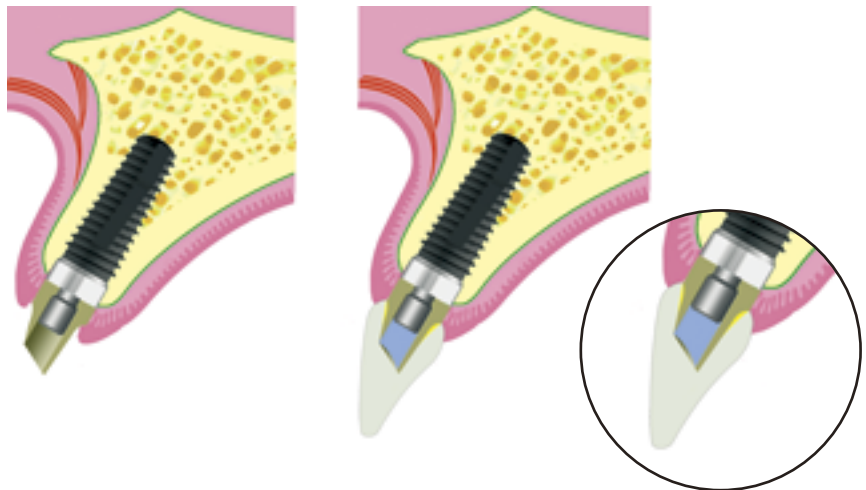
暫間クラウン／ブリッジ

既製の暫間クラウンや事前に製作したクラウンをレジンでライニングして装着します。クラウンの挿入方向は隣在歯によって決まりますが、この方向がインプラントの軸方向と合うことはほとんどありません。このような理由からブリッジはテンポラリーアバットメントとワンピースで作らないほうが賢明です。この作業は必ず口腔外で行ってください。その他の暫間修復の製作に関する全ての手順は全て通常のクラウン・ブリッジ修復の場合と同様に行います。



テンポラリーアバットメントの装着

口腔内への装着の前に部品を全て消毒・滅菌します。インプラント内部を水洗し、残留物がないか確認したうえで乾かします。テンポラリーアバットメントをカムがカム溝に入った感触が得られるまで回転させるようにして挿入していきます。固定スクリューを手締めし、スクリューホールは取り外ししやすい素材で封鎖します。この際コンポジットレジンを使用してしまうと、固定スクリューを取り外すためにドリリングが必要になるため、使用しないでください。スクリューホールへのレジンの入れすぎに注意し（表面はくぼんでいる状態）余剰セメントを除去してください。



参考

Sofortimplantation und Sofortbelastung.

Das Einzelzahn-Sofortimplantat mit Provisorischer Versorgung.

Nagel, Rainer ; Ackermann, Karl-Ludwig ;

Kirsch, Axel

ZMK 17, 1-2/2000